

横浜市社会福祉センター 令和4年度事業報告書

センター設置の目的である「社会福祉を目的とする市民の相互交流及び活動の場を提供すること等により、市民の福祉意識の高揚と主体的な福祉活動の推進を図り、もって市民の福祉の向上に寄与する」（横浜市社会福祉センター条例第1条）に沿った運営を行うため、同条例に基づき、次の事業を実施しました。

○社会福祉活動の推進のための施設、その他のセンターの施設の提供

○社会福祉に関する相談及び支援 等

実施にあたっては、昭和56年の社会福祉センター設置当初から継続的に運営するなかで築かれた利用者との信頼・施設の特性に応じたノウハウなどを生かしています。

令和4年度は、「ボランティアに関する相談支援」として、市社協ウェブサイト上に寄付を活用した生活支援の取組みを紹介したことをきっかけに寄付の相談が増え、多くの支援につなげることができました。また、「利用者サービスの向上」を目的として、インターネットを活用した施設利用予約システムを導入し、利用を開始しました。

1 施設の管理運営・貸出業務

(1) 施設の目的に沿った管理運営

ア 目標稼働率の設定

稼働率・利用件数・利用者数ともに前年度を上回る結果となりました。

○施設利用件数・稼働率

種別	R3実績		R4実績	
	件数(件)	稼働率(%)	件数(件)	稼働率(%)
会議室(7室)	4,232	67.6	4,802	74.6
ホール	366	40.9	450	49.0
軽運動室	487	54.5	801	87.2
計/平均	5,085	63.2	6,053	73.2

※小数点第2位を四捨五入

○施設利用者内訳

(単位：人)

種別	R3実績	R4実績
福祉関係	22,604	37,067
行政等	7,418	13,385
医療関係者	906	3,446
一般	14,462	22,184
社協	25,839	31,401
計	71,229	107,483

イ 目標稼働率の達成に向けた取組

(ア) 社会福祉団体の利用促進に向けた周知

利用促進のため、福祉関係施設・団体へ施設案内リーフレットを配布しました。また、福祉よこはま206号に施設情報を掲載しました。

(イ) 施設予約システムの導入

インターネットを活用した施設利用予約システムを導入し、タイムリーな空室情報

の掲載をするとともに、利用登録団体については 24 時間いつでも予約が可能となり、利便性の向上に努めました。

(ウ) 館内の掲示板を生かした広報

多くの団体に利用してもらうことを目的に、ホールや会議室を使用する多様な団体の講座やイベントの周知に協力するため、館内の掲示板にポスターやチラシを掲出し、周知を図りました。

(エ) 他施設での広報活動の実施（再掲）

地域ケアプラザや地区センターに配付している広報誌「福祉よこはま」へ施設の情報に掲載しました

(2) 建物・設備等の管理

センターは築約 40 年が経過し、建物・設備等の老朽化が進んでいます。長寿命化を図るため点検を適切に実施し、不具合の早期発見と計画的な修繕、横浜市への大規模な修繕の提案等を行っています。

劣化に伴う修繕や消防設備の更新への対応など、事象発生後に即対応することで、利用者が快適・安全に施設を利用できる環境を整えることができました。

その他、利用者からいただいたご意見やご提案を受け止め、対応することで、快適かつ安心・安全に施設を利用いただけるように努めました。

ア 日常管理

職員による日常点検や、専門業者による各種設備点検を適切に行い、利用者が施設を快適に利用できる環境の維持に努めました。

事故を未然に防ぐため、日常点検に加え月 1 回の機材点検日を設定し、窓口職員がマニュアルを基に施設・設備の点検を行うことで、机のがたつきやイスのネジのゆるみ等の小さい不具合も早期に発見し、修繕につなげ、全体ミーティングで事故防止策や設備・備品の不具合等の確認・共有を行い、危機意識の醸成につなげました。

また、清掃業務の適切な実施により、施設の美観を維持し利用者が気持ちよく利用できる状態を保ちました。

イ 修繕・更新

専門業者による定期点検・メンテナンスや、職員の日常点検により、不具合の早期発見に努めました。また、横浜市と十分協議し、緊急度を精査したうえで修繕・改修を実施しました。

(ア) 主な修繕内容

○建物設備関係

- ・消防設備点検不具合箇所修繕
- ・非常誘導灯不具合箇所修繕
- ・ガス漏れ検知器 14 台更新
- ・5 階東側ベランダ雨水排水管補修
- ・空調室外機 GHP-15（スターターモーター等部品交換）
- ・空調室外機 GHP-8（冷媒漏れ）修繕
- ・空調室外機 GHP-11（カムカク・クランクカクセンサー交換）
- ・4 階、7 階及び 8 階多目的トイレ自動ドア修繕
- ・1 階風除室自動ドア部品交換
- ・電気検針メーター 6 台更新

○ホール・会議室・軽運動室関係

- ・軽運動室男子ロッカー室 蛍光灯安定器交換

- ・ 10 階いこいの広間 2 自動火災報知器赤色灯移設工事
- ・ 4 階ホール客席足元誘導灯バッテリー交換
- ・ 4 階ホール空調機室外機 GHP-4 オイルフィルター交換
- ・ 4 階多目的トイレ自動ドア部品交換修理
- ・ 4 階ホール照明卓操作システム無停電装置交換

ウ 安全管理

(ア) 防犯及び安全対策

日常的には、健康福祉総合センターの警備を委託している警備会社により防犯カメラによる 24 時間確認を行うとともに、定期的な巡回により、施設の安全管理に努めました。合わせて、平日は 8:30 から 17:00 まで、1 階ロビーに案内係又は警備員を配置し、入退館者への案内と安全確認を行いました。

なお、職員の少ない平日夜間や土日祝日については、社会福祉センターとして独自に警備会社と契約を結び、社会福祉センター該当階の巡回回数を増やす等、警備体制を強化しました。

また、センターや指定管理者である横浜市社会福祉協議会が運営する他施設で発生した事故やヒヤリハット事例について定例会議等で共有するとともに、原因分析を行いセンターでの事故防止につなげました。

(イ) 事故及び事務処理ミスの防止

利用者等の怪我などの事故がないよう日常点検に加え月 1 回の機材点検日を設定し、窓口職員がマニュアルを基に施設・設備の点検を行うことで、小さい不具合も早期に見出し、修繕につなげています。

事務処理ミスについては、ヒヤリハット事例の共有を行うことで大きな影響を及ぼす事案発生を予防しています。

また、施設予約システムへの移行によりヒューマンエラーを減らすことで、事務処理ミスの削減に取り組んでいます。

(ウ) 緊急時の対応

事故発生時、速やかに対応できるよう、事故対応マニュアルを整備しています。

また、災害発生時にも、利用者を避難誘導し、安全確保に努めるとともに、消防、警察、横浜市をはじめとした関係機関への通報等を行います。なお、二次災害の発生を防止できるようにマニュアルを整備しています。

健康福祉総合センター入居団体と合同で、防災訓練を実施しました（年 2 回）。1 回目は通報・消火・避難誘導訓練を行い、2 回目の訓練は一斉訓練でなく各団体内にて避難経路の確認や避難時における課題の確認等を行っていただき、入居団体内での防災意識の向上に努めました。

(3) 利用者ニーズの把握・苦情への対応

ア 利用者ニーズの把握

(ア) 利用団体交流会の開催

横浜市社会福祉センター利用団体の交流を目的とし、ボランティア団体・当事者団体、市民活動団体、一般団体による研修会を実施しました。

開催日時	令和 4 年 12 月 16 日（金） 9:40~11:50
内 容	①【研修「視覚障害のある方への災害時の支援～情報伝達や誘導の方法など～」 ②情報提供（活動の周知や広報で活用できるツールについて） ③団体交流
参加者	12 団体 17 名

(イ) ご意見箱の設置

各階に「ご意見箱」を設置して利用者から要望・意見等をいただき、快適な会議室等の提供に向けて改善に取り組みました。

○利用者の声 1件

(内訳)

・会場利用に関するもの 1件

(ウ) 窓口満足度調査の実施

期間を設けて窓口満足度調査を実施しました。調査結果は分析を行い、改善宣言を作成し、業務の改善を図りました。

○実施期間：令和4年11月1日～11月30日 回答者数：189名

○いただいたご意見等（抜粋）

・いつも丁寧な対応をしていただき、感謝しております。気持ち良く活動させていただいています。ありがとうございます。

・初めてでよくわからないのを親切によくしていただきました。もう少し慣れて使いこなしていきたいと思えます。よろしくお願いします。

・皆さんとても親切です。ありがとうございます。

○改善宣言

①利用される方への説明の際には、タブレット等を使用しわかりやすく丁寧に説明します。

②全職員で接遇・マナーを徹底することで、より誠実な対応を心がけます。

③ご利用される皆様に利用後の部屋の消毒など、新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただけるように呼びかけながら、引き続き気持ちよくご利用いただけるように努めます。

(エ) アンケート・ニーズ調査

利用者アンケート、ニーズ調査等を通じて、必要な機材や備品の整備等を行いました。また、毎月の職員ミーティングで共有し対応向上等に努めました。

イ 苦情への対応

館内への掲示やホームページを通じ、利用者が苦情を申し出やすい環境を整えました。

○令和4年度実績：0件

(4) 職員体制・育成

ア 窓口職員の配置

市民利用受付窓口は職員9名のシフト制とし、常時2名以上のスタッフを配置し、円滑な受付対応及び貸室の安全確認・消毒等に努めました。

イ 窓口職員の育成

○新任職員教育

新しく窓口業務に従事する職員には、担当職員からオリエンテーションを行い、サポートをしながら、実際の窓口業務を通して電話や窓口対応が習得できるようにOJTによる研修を行いました。

○接遇・マナー研修の実施

施設利用者の満足度向上のため、接遇・マナー研修を実施し、求められる接遇のあり方や苦情が発生した際の対応などを学びました。

○防犯研修

警察OBによる不審者への対応や心構えなどの講義と実技研修を実施しました。

(窓口職員全員参加)

2 ボランティアに関する相談支援

(1) 情報収集・提供

ウェブサイトやフェイスブック等のSNSを活用するほか、プッシュ型の情報提供サービス(※)として「ボランティア情報配信サービス」を用いてボランティア活動や講座などの情報提供を積極的に行いました。広報誌「福祉よこはま」を発行するとともに、紙面にスマートフォン向けの2次元コードを掲載し、ウェブサイトへアクセスしやすい工夫をしました。

※ユーザーが能動的に情報を取得するのではなく、発信者がユーザーにインターネットを利用して情報を提供するタイプの情報サービス。

ボランティア情報 掲載件数 (HP)	119 件
ボランティア情報 配信件数 (メルマガ)	94 件
Facebook 掲載件数	138 件

(2) 相談対応

横浜市全体を対象とする広域ボランティアセンターとして、ボランティア・市民活動に関する様々な相談に対応しました。

ア 区域を超えたコーディネート

区ボランティアセンター等の区域の支援組織や広域で活動する団体と連携して区域を超えたコーディネートを行いました。

○ボランティア関連相談件数：235 件

イ 視覚障害者の情報保障のためのプライベートサービスの提供

視覚障害者の情報保障のため、個人からの依頼を受け各種ボランティアグループ等へのコーディネート及び相談調整を行いました。

また、視覚障害者総合情報ネットワーク「サピエ」を通じて点訳等の情報提供を行いました。

○プライベートサービス相談調整：64 件（音声訳：53 件、対面代筆：11 件）

ウ 地域活動支援

ボランティアセンターへの相談者の中には、社会参加のきっかけを求めて相談に来る方が増えています。そうした方が活動できるよう、市域のボランティアセンターとして各種団体や各区ボランティアセンターと連携して、相談者に適した活動先のコーディネートを行いました。

項目	R2 実績		R3 実績		R4 実績	
	件数	調整数	件数	調整数	件数	調整数
制度・グループ・一般情報	80	106	133	165	116	73
技術・講座	10	34	8	76	19	47
ボランティア関連相談	135	416	140	411	235	453
企業の貢献活動	-	-	5	23	67	414
機材貸出相談	5	9	6	20	3	0
寄付関連相談	369	863	379	1,418	463	2,832
その他の情報	434	193	315	317	140	149
計	1,033	1,621	986	2,430	1,043	3,968

3 場と立地を生かした取組（自主事業の実施）《重点》

(1) 場を生かした取組の実施

センターやボランティアセンターを利用する団体に対して、チラシの掲示や利用団体交流会等の機会を通じてボランティア相談が出来る施設であることを周知しました。相談時には、必要に応じた情報提供を行うほか、専門性の高いものについてはボランティアセンター職員とともに対応し、団体に寄り添った相談支援を行いました。

ア 点字製作室・録音室自主運営委員会の開催

市域の拠点の特性を生かし、区域を限定しない各団体の活動状況や課題等を共有し、団体間の交流・協働につなげるための支援として自主運営委員会を開催しました。団体間での情報交換や自主運営の貸室の設備の不具合などの確認を行いました。

日時	令和4年11月29日（火）13：30～14：30
内容	録音室・テープ受発送室自主運営委員会
参加者	6団体

日時	令和4年12月1日（木）10：00～11：00
内容	点字製作室自主運営委員会
参加者	8団体

イ 利用団体交流会の開催（再掲）

横浜市社会福祉センター利用団体の交流を目的とし、ボランティア団体・当事者団体、市民活動団体、一般団体による研修会を実施しました。

開催日時	令和4年12月16日（金）9：40～11：50
内容	①【研修「視覚障害のある方への災害時の支援～情報伝達や誘導の方法など～」 ②情報提供（活動の周知や広報で活用できるツールについて） ③団体交流
参加者	12団体17名

ウ 助成金セミナーの開催

センターを利用する福祉活動団体をはじめとする団体支援として、市民活動団体における活動資源や資金調達、助成金の活用等を学ぶため、助成金セミナーを開催しました。また、ウェブサイトを通じて、随時、民間助成金についての情報提供を行いました。

開催日時	令和4年11月10日（木）10：00～12：00 （オンライン開催）
内容	市民活動における資金調達 助成金についての基礎知識や意味、考え方など
参加者	11団体11名

エ 広域的、先駆的な団体や活動の育成

区福祉保健活動拠点等で活動規模が大きく、対象エリアが広い、先駆的な課題に取り組んでいる等の特徴を持つ団体の育成支援を行うため、情報の収集・蓄積を行いました。あわせて、上記助成金セミナーでは団体共通の課題を扱うなど団体支援へとつなげました。

(2) 立地を生かした企業等との連携

多くの企業が集まるみなとみらい地区等に近接している立地を生かし、企業の地域貢献活動の支援に積極的に取り組みました。

ア 企業の地域貢献活動の支援

(ア) コーディネートの実施

相談件数 170件

【コーディネート事例】

・洗剤・石鹸・歯磨きなどの生活用品メーカーである企業から地域向け講座の相談を受け、高齢者サロンや親子向け講座等を実施する地域ケアプラザにて無料で実施していただきました。(7施設で実施)

(イ) NPOや企業等との連携

横浜サンタプロジェクトへの参加

市内NPO法人や企業等とのネットワークによる協働事業「横浜サンタプロジェクト」に参加しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりパシフィコ横浜円形広場をメイン会場とした活動は実施できませんでしたが、毎年訪問活動を実施している企業・団体が訪問先(児童福祉施設等・団体)へプレゼントを贈るための調整等のコーディネートを行い、企業の社会(地域)貢献活動を支援しました。

開催期間	令和4年12月4日(土)～12月10日(土)
会場	各企業・団体の活動場所
内容	サンタとなって横浜に笑顔をプレゼントするプロジェクトです。 横浜市内の企業やNPO・学生が中心となり運営し、社会貢献活動や地域参加のきっかけをつくります。企業ごとに下記のサンタの中から取組内容を選択し、実施しました。 訪問サンタ：市内児童福祉施設等へ文房具や、紙芝居、歌、ダンス動画など作成したDVDをプレゼントしました。 清掃サンタ：12月10日(土)にみなとみらい地区の清掃活動を公募で行いました。
参加者	清掃サンタ当日参加者数(企業・団体等)：139人

イ 企業・地域に向けた情報発信

企業の社会(地域)貢献の取組事例について、本会ホームページで掲載し、企業・地域向けに発信しました。

4 広域団体・中間支援組織との連携《重点》

広域ボランティアセンターの特性を生かし、他機関との連携・情報収集や災害等共通テーマのある団体との情報交換に取り組みました。

(1) 広域団体・中間支援組織との連携

ア ボランティア等市民活動に関する中間支援組織の連携強化

NPO法人アクションポート横浜や市内地域ケアプラザ等と学生と地域をつなぐ取組に向けたネットワークの構築と取組実施に向けた検討を行いました。

イ 精神保健ボランティア活動の支援・交流

市内で活動する精神保健ボランティアグループの連絡会(精神保健福祉ボラネットよこはま)の事務局として、市内の精神保健ボランティアグループの情報交換・共有を行いました。

日 時	令和5年1月10日（火）10時～12時
参加者	7名
内 容	各参加団体の活動紹介および情報交換

5 各区の福祉保健活動拠点の支援《重点》

区福祉保健活動拠点を総合相談・支援機能の1つとして改めて位置づけ支援を行うため、各区の特色や強み・現状や課題の把握を行いました。新しく担当になった職員に対しての年度初めのオリエンテーションや、相談スキルの向上のための研修など、把握した課題に対しての支援を行いました。

(1) 区ボランティアセンター支援

ア ボランティアコーディネーター及び担当職員のスキル向上支援

コーディネーターや担当職員のスキル向上を支援するため、担当者会議での意見・情報交換や、研修会を開催しました。また、ボランティアセンター関連事業の新任担当者向けのオリエンテーションを実施しました。

○ボランティアセンター新任担当者向けオリエンテーション

日 時	令和4年4月28日（木）
内 容	・福祉教育事業 ・ボランティアセンター事業
日 時	令和4年5月10日（火）
内 容	・善意銀行 ・災害ボランティア事業 ・ふれあい助成金事業
参加者	45名（延べ）

○ボランティア担当者会議

日 時	令和4年7月21日（木）
内 容	事務連絡およびグループワーク

○ボランティアセンターコーディネーター連絡会

日 時	令和5年2月27日（月）
内 容	市民協働推進センターおよび各区の市民活動センターについての講義 グループワーク、情報交換

イ 区福祉保健活動拠点のボランティアコーディネート状況の分析（再掲）

区ボランティアセンターに寄せられる相談は、ボランティア相談に限らず多岐にわたるため、対応時に必要とされる社会資源等の情報把握や状況に即した相談者への提案等のスキル向上が求められることが分析から把握ができました。ボランティア相談等の対応時に必要とされる社会資源の把握と、関係機関との連携・協働によるネットワーク構築の推進を目的とした研修を行いました。

また、現在使用しているシステムに替わる、ボランティアコーディネートや職員間の情報共有を円滑に行うことを目的とした新たなツールの導入に向けた検討を進めました。

6 その他考慮すべき取組

(1) 利用者サービスの向上

ア 利用者サービスの向上

インターネットを活用した施設利用予約システムを導入し、市民の利便性の向上を図りました（再掲）。導入にあたっては、貸室の種別ごとに説明会を開催し、予約方法等について丁寧に説明しました。

○ホール・会議室利用団体向け説明会

日 時	【第1回】令和4年8月20日(土)10時～11時30分 【第2回】令和4年8月22日(月)14時～14時30分
参加者	117団体 144名

○軽運動室利用団体向け説明会

日 時	【第1回】令和4年12月10日(土)10時～11時30分 【第2回】令和4年12月15日(水)10時～11時30分
参加者	27団体 34名

○ボランティア諸室利用団体向け説明会

日 時	【第1回】令和5年3月15日(水)10時～11時30分 【第2回】令和5年3月23日(木)10時～11時30分
参加者	13団体 16名

イ 利用者の活動サポート

施設や設備の貸出の際には、必要に応じて機器等の操作方法などについて説明を行い、利用者の活動が円滑に行えるように適切な対応を行いました。

また、利用団体からの要望にお応えし、令和4年度から要約筆記を必要とする団体が利用する際に、聴覚障害者等への情報補償のためのパソコン要約筆記用周辺機器の貸し出しを新たに開始しました（依頼件数47件）。

(2) コストを意識した施設運営

指定管理者として適正で効率的な運営を行うため、本会が複数の指定管理施設を受託しているスケールメリットを生かし、複数施設での消耗品等の一括購入等を実施することで単価を下げ、経費の削減に努めました。

また、電気料金等の高騰に伴い、冷暖房を適温に設定し、始業前・終業後の不要な照明、利用していない区画の消灯、利用していない事務用機器・電気機器の電源を落とすなどの工夫により、同様に経費の削減やエネルギー資源の有効活用にも努めました。

○コピー用紙等事務経費の一括入札の実施

○複数の業者による見積の徴取

○調光機能付き照明設定

○1階エントランス、各階廊下の部分消灯

○機材点検日については、全て17時15分に運転停止（7階南側～10階南北側）

(3) 感染症対策

利用団体に安心してご利用いただくため、利用後の消毒、マスク着用・事前検温のお願いなど、利用団体に協力を呼び掛けながら、安心して使用していただけるよう努めました。

令和4年度 「横浜市社会福祉センター」 収支報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明 (※：差引額の主な理由)
指定管理料	132,714,000	1,254,000	133,968,000	133,968,000	0	横浜市より
物価高騰に伴う指定管理施設運営支援金	0	4,615,000	4,615,000	4,615,000	0	
利用料金収入	6,829,000		6,829,000	6,722,125	106,875	貸室利用料金収入、貸出機器の利用料金収入等
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0	0	0	
自主事業収入	0		0	0	0	
雑入	8,000	0	8,000	319,057	△ 311,057	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（ ）	8,000		8,000	319,057	△ 311,057	※水道光熱費の過年度処理による増
法人会計より負担	8,257,000		8,257,000	0	8,257,000	※支出減に伴い法人負担による補填が不要になったため
収入合計	147,808,000	5,869,000	153,677,000	145,624,182	8,052,818	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明 (※：差引額の主な理由)
人件費	25,442,000	0	25,442,000	20,789,801	4,652,199	※システム導入を含めた業務の見直しに伴う減等
職員・俸給	4,457,000		4,457,000	3,315,840	1,141,160	
職員手当	967,000		967,000	811,118	155,882	
通勤手当	195,000		195,000	195,242	△ 242	
職員賞与支出	1,668,000		1,668,000	951,813	716,187	
非常勤職員給与	16,437,000		16,437,000	13,230,018	3,206,982	
法定福利費	1,265,000		1,265,000	2,019,175	△ 754,175	
退職積立金	453,000		453,000	266,595	186,405	
事務費	381,000	0	381,000	228,447	152,553	
福利厚生費	43,000		43,000	29,972	13,028	職員健診費用等
研修費	140,000		140,000	82,500	57,500	接遇研修、防犯訓練経費
諸会費	40,000		40,000	0	40,000	
事務消耗品費	28,000		28,000	27,588	412	業務システム（グループウェア）利用料
広報費	50,000		50,000	0	50,000	
賃借料	0		0	60,000	△ 60,000	会計システム賃借料
保守費	74,000		74,000	22,387	51,613	人事・勤怠システム保守料
業務委託費	6,000		6,000	6,000	0	Microsoft Office365サポート料
事業費	50,787,000	0	50,787,000	51,067,287	△ 280,287	
諸謝金	224,000		224,000	211,932	12,068	団体交流会講師謝金、施設利用予約システム説明会手話通訳者金等
旅費交通費	14,000		14,000	4,746	9,254	出張旅費等
消耗品費	2,595,000		2,595,000	2,225,834	369,166	利用者用衛生用品等の購入等
器具什器費	750,000		750,000	1,748,450	△ 998,450	ワイヤレスマイク付きスピーカー、マット、予約システム用カレット
印刷製本費	1,858,000		1,858,000	1,781,484	76,516	福祉よこはま作成費、封筒、利用申請書増刷、領収書など
通信運搬費	1,571,000		1,571,000	1,400,015	170,985	電話代、インターネット回線利用料等
広報費	0		0	0	0	
手数料	10,000		10,000	14,240	△ 4,240	カーテンクリーニング料、振込手数料、謄本取得手数料
損害保険料	100,000		100,000	115,230	△ 15,230	施設賠償責任保険料
賃借料	1,124,000		1,124,000	1,064,498	59,502	電話交換機、コピー機及びAED等
教養娯楽費	22,000		22,000	21,307	693	NHK受信料
業務委託費	42,519,000		42,519,000	42,175,901	343,099	警備駐車場業務、ホール関連業務及び事務機器・設備の保守業務委託等
雑支出	0		0	303,650	△ 303,650	利用料返金（コロナ）、廃棄物回収負担額など
事業費（管理費）	67,462,000	5,869,000	73,331,000	69,165,227	4,165,773	※設備保全費の委託契約額等が見込を下回ったことによる支出減
光熱水費	18,740,000	4,615,000	23,355,000	25,256,929	△ 1,901,929	※燃料費高騰による支出増
清掃費	15,148,000		15,148,000	12,180,110	2,967,890	
修繕費	1,580,000	1,254,000	2,834,000	4,548,728	△ 1,714,728	各種小破修繕費 ※劣化・破損状況による支出増
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	31,994,000	0	31,994,000	27,179,460	4,814,540	
建物管理業務	26,462,000		26,462,000	22,639,209	3,822,791	
消防設備保守	762,000		762,000	692,414	69,586	消防用設備保守
電気設備保守	842,000		842,000	276,966	565,034	発電設備保守
害虫駆除清掃保守	214,000		214,000	194,419	19,581	
駐車場設備保全費	1,075,000		1,075,000	977,526	97,474	
その他保全費	2,639,000		2,639,000	2,398,926	240,074	EV保守、自動扉保守、蓄電池保守、中央監視盤保守
共益費	0		0	0	0	
公租公課	2,231,000	0	2,231,000	1,780,409	450,591	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	2,200,000		2,200,000	1,779,409	420,591	固定資産税（減価償却）、消費税
印紙税	31,000		31,000	1,000	30,000	
その他（ ）	0		0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	1,505,000	0	1,505,000	1,438,000	67,000	
本部分	1,505,000		1,505,000	1,438,000	67,000	会計監査人監査委託料、本部経理事務等負担金
当該施設分	0		0	0	0	
支出合計	147,808,000	5,869,000	153,677,000	144,469,171	9,207,829	
差引	0	0	0	1,155,011	△ 1,155,011	

横浜市社会福祉センター 令和4年度自己評価書

1 施設の管理運営・貸出業務

No.	評価項目	実績	評価
1	施設の目的に沿った管理運営	別添事業報告書 P. 1, 2	稼働率・利用件数・利用者数いずれも前年度を上回る結果となりました。新型コロナウイルス流行前の稼働率には及ばないものの、回復傾向が見られました。
2	建物・設備等の管理	別添事業報告書 P. 2, 3	劣化に伴う修繕や消防設備の更新への対応など、事象発生後に即対応することで、利用者が快適・安全に施設を利用できる環境を整えることができました。 24時間体制の警備や日常点検に加え、月1回の機材点検日での定期的な施設・設備の点検を行い、利用者に安心・安全に施設を利用いただくことができました。 また、緊急時に備えたマニュアルの整備や、健康福祉センター入居団体合同の防災訓練の開催(年2回)などにより、緊急時に速やかに対応できる体制を作ることができました。
3	利用者ニーズの把握・苦情への対応	別添事業報告書 P. 3, 4	利用者アンケートの実施、ご意見箱の設置など複数の意見聴取の手段を設けてニーズの把握を行うとともに、快適な会議室等の提供に向けて改善に取り組み、利用者のニーズに丁寧な対応ができました。 窓口満足度調査では、窓口職員等の丁寧な対応へのお礼のご意見もいただきました。
4	職員体制・育成	別添事業報告書 P. 4	インターネットから会議室等を予約できるシステムを導入したことで、市民の方を窓口でお待たせすることが減り、限られた人員でも円滑に対応できるようになりました。また、施設利用者からのボランティア相談にはボランティアセンター職員と連携し対応しました。 職員育成については、毎月の職員ミーティングや新人職員へのOJT研修の実施などにより、知識の向上に努め、市民の方へのサービス向上につなげました。また、防犯研修を実施し、警察OBの指導による不審者への対応や心構えなどの講義と実技を学び、安心・安全な施設運営に努めました。

2 ボランティアに関する相談支援

No.	評価項目	実績	評価
1	情報収集・提供	別添事業報告書 P. 5	SNS等を活用した情報発信や、プッシュ型(※)の「ボランティア情報配信サービス」等により、ボランティア活動や講座などの情報発信を行いました。 ※ユーザーがインターネットから能動的に情報を取得するのではなく、発信者がユーザーに情報を提供する仕組みのこと また、市社協ホームページのリニューアルに合わせ、ボランティア情報や講座・イベント情報等の掲載について、見やすく探しやすいレイアウトに変更しました。
2	相談対応	別添事業報告書 P. 5	市域のボランティアセンターとして広域的な情報網を活かし、相談者に適した活動先の紹介等を行いました。

3 場と立地を生かした取組（自主事業の実施）《重点》

No.	評価項目	実績	評価
1	場を生かした取組の実施	別添事業報告書 P. 6	施設利用団体等へボランティアセンター職員と連携して情報提供や相談対応を行いました。また、利用団体交流会や点字製作室、録音室それぞれの自主運営委員会、助成金セミナーの開催などを通じ、ボランティア・福祉活動団体の活動支援を行いました。
2	立地を生かした企業等との連携	別添事業報告書 P. 7	企業による地域貢献活動の相談に対しては、本会が持つネットワークを活かした具体的な取組を提案し、活動につなげました。

4 広域団体・中間支援組織との連携《重点》

No.	評価項目	実績	評価
1	広域団体・中間支援組織との連携	別添事業報告書 P. 7, 8	災害時に広域活動団体と連携できるように、「横浜災害ボランティアネットワーク会議」を運営し、情報交換や研修会を実施しました。 また、中間支援組織のNPO団体が実施する地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーターによる若者と地域をつなぐ取組に向けたプラットフォームの構築を支援しました。

5 各区の福祉保健活動拠点の支援《重点》

No.	評価項目	実績	評価
1	区ボランティアセンター支援	別添事業報告書 P. 8	区ボランティアセンター担当職員やボランティアコーディネーター向けに担当者会議や研修会を実施し、コーディネートスキルの向上に努めるとともに、各区福祉保健活動拠点ボランティア関連事業の実施結果を集約し、提供しました。

6 その他考慮すべき取組

No.	評価項目	実績	評価
1	利用者サービスの向上	別添事業報告書 P. 9	インターネットを活用した施設利用予約システムを導入し、市民の利便性の向上につなげました。また、利用日の設備の貸出時には、必要に応じて機器の操作方法を説明し、サービスの向上につなげました。 令和4年度から要望にお応えし、聴覚障害者のための要約筆記機材を常設しました。
2	コストを意識した施設運営	別添事業報告書 P. 9	本会が複数の指定管理施設を受託している利点を生かして、消耗品の購入にあたり一括入札を実施するなど、コスト削減を図ることができました。 また、電気料金等の高騰に伴い、エントランスや廊下等の節電に取り組みました。
3	感染症対策	別添事業報告書 P. 9	利用団体に安心してご利用いただくため、利用後の消毒、マスク着用・事前検温のお願いなど、利用団体に協力を呼び掛けながら、安心して使用していただけるよう努めました。